

グローバルCOE 科学英語プログラム Global COE Scientific English Program

グローバルCOEプログラム・特任准教授 フィリップ・ホーク

グローバルCOE科学英語プログラムは、3年目が始まるようとしています。薬学研究科/生活健康科学研究科大学院学生に対し、科学的分野での英語コミュニケーション能力の向上を支援するために、本プログラムを平成19年に開始しました。平成19年10月から、「オーラル・コミュニケーション」と「アカデミック・ライティング」の授業を試し、平成20年度には、「アカデミック・プレゼンテーション」を授業科目に追加しました。平成21年度には、さらに2つの新規授業科目を追加します。iPodを使用したリスニングである「インディペンデント・リスニング」と科学的事項に関する学生主導のディスカッションである「学生主導型ディスカッション/Student-Led Scientific Discussion」です。

オーラル・コミュニケーション



「オーラル・コミュニケーション」は、1年間の実践的なコミュニケーション授業で、「オーラル・コミュニケーションI」と「オーラル・コ

ミュニケーションII」から構成され、研究者が海外の学会や訪問先において討論する際に直面する様々な状況に対応する内容を扱います。ペアや小グループになって、討論、ディベート、および状況を設定した会話を実施します。発音練習を含むスピーキングに重点を置きますが、リスニングの練習もします。同程度の能力の学生と練習ができるように、基礎と中・上級クラスの2つに分かれています。平成20年度は、26名の学生が参加し、授業終了時まで、受講生の英会話能力は向上し、また受講生は自信をつけました。本授業に対し、それぞれ71%の受講生から、「受講する価値がとてもあった」あるいは「とても興味を持てた」という評価を得ました。

小貫 仁君 (薬学研究科・博士前期課程2年)



オーラル・コミュニケーションの授業では、基本的な自己紹介、日常会話の他に専門用語を使った会話までの幅広い状況を想定した英会話を学びました。授業中の会話はすべて英語で行われるので、緊張感を持って取り組むことができ、スピーキングはもちろんリスニングの力も身に付きました。

また、この授業を通して他の研究室の学生たちと

情報交換できたことは大きなメリットでした。英会話のスキルだけでなく、コミュニケーションそのものの重要性を教えてもらった貴重な時間でした。

アカデミック・ライティング



「アカデミック・ライティング」は、科学論文、発表ポスター、履歴書、およびEメールの作成と編集を扱います。毎回、各種ライティングの主な問題点について説明し、各自

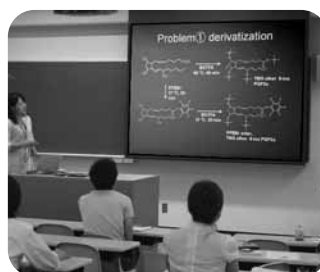
にライティングしていただきます。学生は4から7点の短い作文を提出します。私は、これらに対して詳細な添削とフィードバックを行います。平成20年度は、13名の学生が参加し、受講生は、より明快で論理的な論文が書けるようになりました。本授業に対し、67%の受講生から、「受講する価値がとてもあった」、また87%の受講生から、「とても興味を持てた」という評価を得ました。

大住美穂さん (生活健康科学研究科・博士後期課程2年)



アカデミック・ライティングの授業では、英語での論文やポスターの作成の書き方を学びました。細かい文法や、前置詞等の使い方など、見落としがちなポイントを重点的に教えて頂けるので、実際に自分で英文を書くときの参考になるとと思います。

アカデミック・プレゼンテーション



「アカデミック・プレゼンテーション」は、平成20年度から開始しました。目的は、会議や研究室セミナーにおいて、効果的な口頭発表をするために必要な知識と能力を向上させることです。授業では、

文章構成、スライド編集、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、および質疑応答の5項目を扱います。学生は、学期初めにプレゼンテーションを行い、その様子をビデオで撮影します。学生は、ビデオを見て、自分のプレゼンテーションを評価します。ワークショップ形式で、各自のプレゼンター

ションに対して上記各項目に関して見直します。一連の授業の最終時に、学生は改訂版のプレゼンテーションを行います。平成20年度には、16名の学生が参加し、各項目において30%以上の能力の向上が見られ、言語コミュニケーションと質疑応答については、最高で約40%の上達が認められました。83%の受講生から、「受講する価値がとてもあった」、また75%の受講生からは「とても興味が持てた」との評価を得ました。

吉澤美沙さん (薬学研究科・博士後期課程 1年)



私は**アカデミック・プレゼンテーション**を受講しました。分かり易く伝えることはもちろん、聴衆を引き込み、かつ興味・面白味を感じてもらえるような発表が大切だということを学びました。大変勉強になりました。今後のプレゼンにとっても役立ちますので、ぜひ本授業の受講をお勧めします。

iPodリスニング・プロジェクト



このプロジェクトは、平成20年の夏、試験的に実施し、23名の学生が参加しました。インターネット上で利用できる科学的内容のポッドキャスト（リスニング教材）を活用しました。学生にはiPod（携帯型リスニング機器）を貸与し、リスニング練習のため、私が選択したオーディオファイルをダウンロードしていただきました。各ポッドキャストについてのオリジナル課題も準備しました。8週間後の終了時には、学生のリスニング能力は約10%向上し、最高では45%でした。本プロ

ジェクト参加者の46%が、「受講する価値がとてもあった」と評価し、また58%が、「とても興味が持てた」との評価を残しました。この試験的プロジェクトは、平成21年度のカリキュラムに追加する新規「インディペンデント・リスニング」の基盤となっています。

植草義徳君 (生活健康科学研究科・博士後期課程 2年)



iPodリスニング・プロジェクト

トは、英語系ポッドキャストの全番組をリスニング教材として利用できるため、ニュースや教養番組といった様々なジャンルの英語に接することができました。空いた少しの時間を使って学習できる点も良かったです。

さらに毎週与えられる課題には内容を理解するための手がかりとなるプリントが添付されるため、問題に解答しながら楽しく学べました。

インディペンデント・リスニング、学生主導型ディスカッション (平成21年度新規授業科目)

平成21年度には、さらに2つの新規授業科目を導入します。1つは試験的iPodリスニング・プロジェクトを基盤とした「インディペンデント・リスニング」、もう1つは「学生主導型ディスカッション／Student-Led Scientific Discussion」です。後者は最近話題となっている科学的事項や問題に重点を置きます。私がサポートしながら、学生は議論する話題を選択し、学生が主導的に討論を行います。また、単位認定対象ではない「論文作成チュートリアル」も開始し、学生が執筆する英語論文について、相談に乗ります。これらの新規試みにより、3年目の科学英語プログラムは、過去2年間の成果をさらに発展させることとなります。

薬学研究科／生活健康科学研究科教員向けプレゼンテーション・セミナー



平成20年度後期に、薬学研究科／生活健康科学研究科の教員向けに、プレゼンテーション・セミナーを毎月開講しました。セミナーは、教員と相談の上、大学院学生のために用意した「アカデミック・プレゼンテーション」で扱った課題を基に行いました。参加者のプレゼンテーション能力向上の支援に加えて、科学英語教育に対する教員の意識改革にも繋がりました。

井川貴詞助教 (薬学研究科)



教員向けセミナーは、教員同士のディスカッション（もちろん英語で）を中心とした授業形式で進められました。その中で、ホーク先生がネイティブの立場から「日本人科学者のプレゼンテーションには何が足りないのか？」あるいは「どうすれば上達できるのか？」を要領よく教えて下さいました。英語を「話す」機会を頂けるので、私は喜んでこのセミナーに参加させて頂きました。このセミナーは悪戦苦闘しながら英語を話していた留学時代を思い出させてくれます。是非、このようなセミナーを増やして頂きたいと願っています。

邦訳：松葉美之 (グローバルCOEプログラム・事務局スタッフ)
小林裕和 (大学院生活健康科学研究科・教授／研究科長)